

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 28 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2022 年 10 月 31 日(木) 13:30~16:30

場 所： WebEx 会議

配布資料

RK6SC 28-1	第 27 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 28-2-1	人事について
RK6SC 28-2-2	外的事象 PRA 委員名簿 2022/10/31 版
RK6SC 28-3	外部ハザード選定標準の改定作業
RK6SC 28-4-1	原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準:202X”で受け付けた意見への対応について(標準委員会コメント対応表)
RK6SC 28-4-2	地震 PRA 標準 202X 改訂(案)【本文】
RK6SC 28-4-3	地震 PRA 標準 202X 改訂(案)附属書リスト
RK6SC 28-4-4	地震 PRA 標準の現行版と新規標準原案との対比表
RK6SC 28-4-5	地震 PRA 標準 202X 改訂(案) 中間報告資料

倫理教育資料

議題：

1. 定足数確認、資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 外部ハザードのリスク評価方法選定標準 改訂
5. 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準:202X”標準委員会コメント対応
6. その他、次回日程
7. 倫理教育

出席委員(17名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、内山委員(大成建設)、織田委員(日立 GE)、喜多委員(東電 HD)、国政委員(関電)、栗田委員(東電設計)、小林委員(中部電)、佐藤委員(東芝 ESS)、砂川委員(北海道電)、田中委員(MHI)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、高橋(美原委員代理)(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、

欠席委員(2名)： 中島委員(電中研)、西田委員(JAEA)

出席常時参加者(1名)： 根岸(原電エンジニアリング)

欠席常時参加者(1名)： 倉本(NEL)

参加者(3名)： 藤岡(日立 GE)、原口(MHI) 猪股(東北電力)

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 17 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容が説明され、題名を修正することで承認された。

以下の議論があった。

- ・外部ハザードの議論のところで気候変動の議論を取り入れるという話があった。規制を含めた現状の議論が分かれば情報を知りたい。外部事象選定の際に対象となる気候変動について現状のものが使えるかということを考慮することを標準で示すイメージか。
- ・喜多委員より 2,3 年前に竜巻の風速を 100m/s よりも小さくするという議論の際にそのような話があったと記憶している。見直すタイミングを示す、あるいは先取りして取り込むべきなど意見は分かれるかと思う。 → 引き続き分科会で議論したい。

(3) 人事について

地震 PRA 作業会より、松本委員の退任、常時参加者の 1 名の登録と退任報告があった。

(4) 外的ハザード評価方法選定標準 改定作業について

泥谷委員より、外的ハザード評価方法選定標準の改定と附属書へのコメント内容について説明が行われた。また、織田委員より特性分析要素・基準の確認についての検討、根岸常時参加者より複合事象などの用語の定義の検討、佐藤委員よりハザードの分類と例の検討、田中委員より複合事象のハザードの組み合わせの検討、に関する説明があった。12/16 を目処に各担当者で取りまとめ、次回分科会で議論の反映をすることとなった。以下の議論があった。

- ・竜巻は厳密には強風ではなく突風である。ダウンバーストの扱いも含めて表現を工夫するとよい。 → 強風は風とし、暴風に竜巻等の突風とすることを確認する。
- ・風津波の記載箇所も津波に含めるかの検討が必要か。 → 拝承。
- ・分類の判断の悩むところだが、現状の分類はよくできているのではないか。
- ・特性分析要素・基準で、SA 対応設備だけが災害にやられるというケースは考えるか
→ 影響を評価する際に必要な機器が評価されるため、可搬機器などは 5 の設備として入ってくると考えている。

- ・本標準では外部ハザードの分類の取り扱いであるため、外部ハザードの誘因により内部ハザードが引き起こされるものは対象外であることを明記すべき。
- ・巨大地震での本震と余震の取り扱いにして、複合事象として取り扱うべきか等について議論が行われ、表の地震動の備考に「M9クラスの巨大地震時は余震も含めて単一ハザードに含んでいる」という旨を記載することとした。

(5) 地震 PRA 標準改定 標準委員会コメント対応結果

地震 PRA 作業会根岸幹事より、標準委員会からのコメント対応についての変更点についての説明があった。本内容でリスク専門部会にも報告をすることが了承された。

修正版を後日外的事象 PRA 分科会のメーリングリストに送付するので各委員からレビューを行うこととなった。これらを受けて次回の分科会には本報告を目指し、コメント対応などで 12 月いっぱいまでの作業をすることが説明された。

以下の議論があった。

- ・附属書（参考）は中間報告では出してないものは今回の標準委員会では出さずに、附属書リストで出すという対応とした方が議論が集中すると思われる。 → 拝承。

(7) その他、次回日程

次回は 2023/1/25 午後で調整。

(8) 倫理教育

分科会終了後、倫理教育が実施された。

以上